

「瑞浪駅周辺まちづくり」の検討状況について

■ 瑞浪駅周辺まちづくり全体コンセプト

未来の子どもたちに渡せるまち

～瑞浪らしさを活かした多世代交流空間の創造～

皆様がこれから考えていく「まち」は、未来の子どもたちが主役です。未来の子どもたちが暮らしたいと思える「まち」づくりが必要です。誰だってお荷物や負債は「受け取りたくない」「のこす」はどんなものでも残せませんが、「わたす」は受け取ってもらえるものでなければなりません。どんなまちだったら、子どもたちは受け取ってくれるのか？

■ まちづくりのための社会実験

様々な社会実験を通じて、まちの賑わいづくりや多世代が交流できる空間の可能性について検証し、計画に反映していきます。



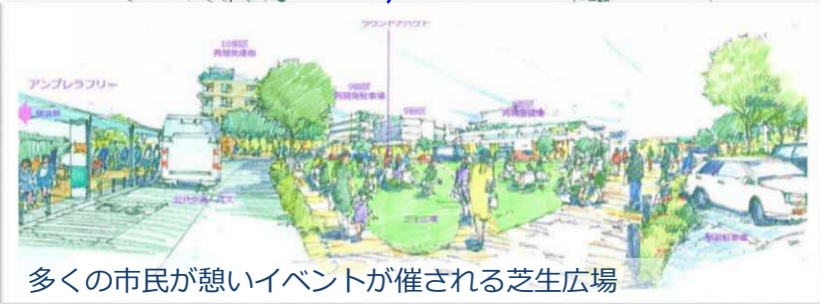
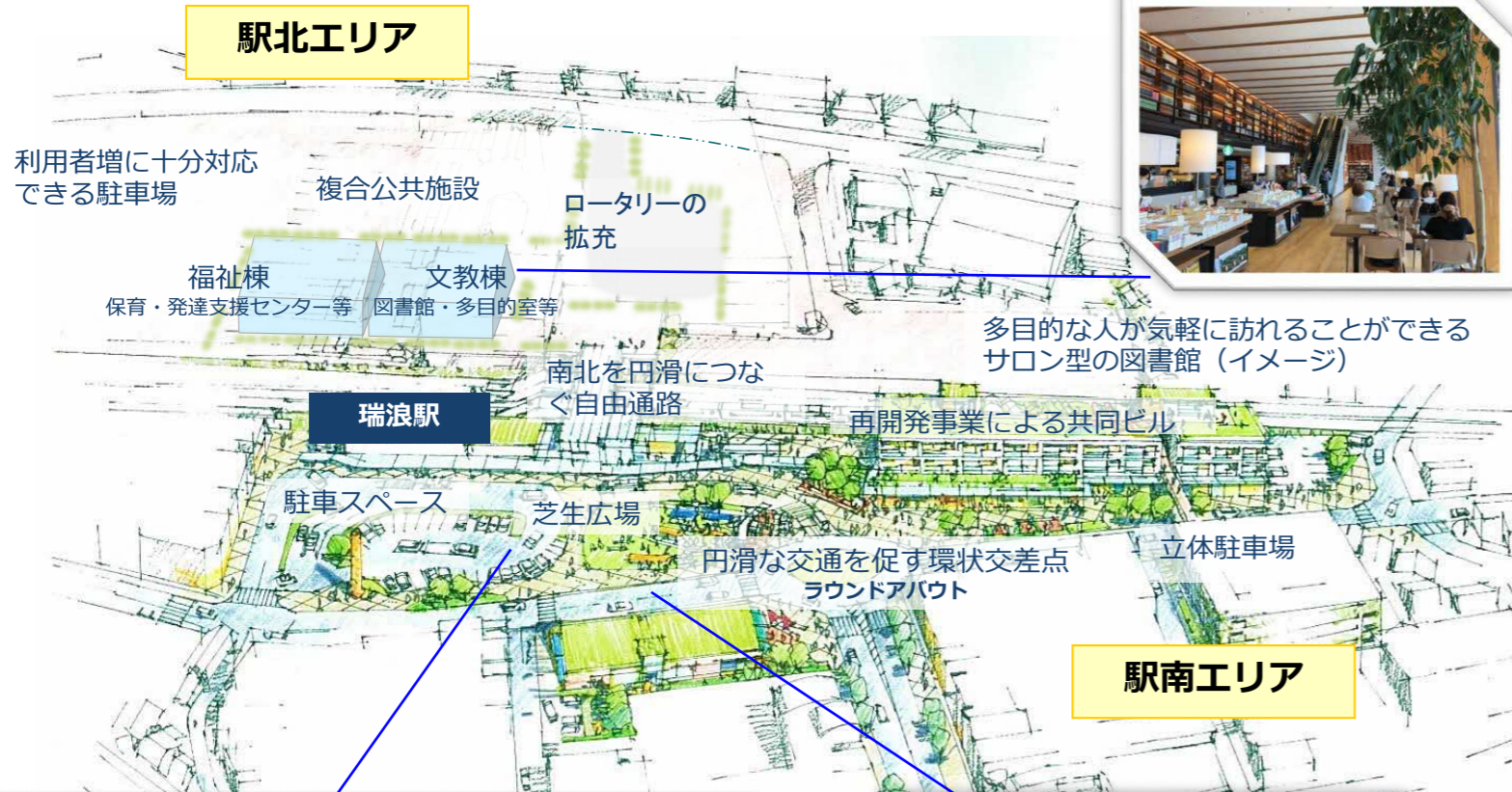
Mビル



えびす屋

■ 瑞浪駅周辺まちづくり全体像

※現段階のイメージです



■ まちづくりの経緯・課題・検討状況

瑞浪駅周辺は、昭和50年代当初に市街地整備されてから40年近くが経過しており、建物など施設の老朽化や住民の高齢化、商店街のにぎわいが失われているなど、中心市街地としての活性化が緊急の課題となっています。このような状況を打開するため、平成28年度より関係地権者などの方々による勉強会、先進地視察などが開催され、瑞浪駅周辺のまちづくりについて活発な議論がされています。

駅北の複合公共施設については、基本構想の段階で構想に加わり、集約施設の検討や機能配置について検討を重ねてきました。

■ 駅北エリア 官民連携による事業手法を検討中

瑞浪市公共施設再編成プランから、中央公民館、図書館、子ども発達支援センター、教育支援センターの既存4館を駅北へ集約し新たな機能と再編する複合公共施設を検討しています。

新たに整備する駅北複合施設を東濃地域の「サードプレイス」と位置付け、カフェ等を併設したサロンのような図書館や、式典等を行うことができるホール機能、隠れ待機児童の課題解決や就労支援など、市民ニーズを幅広く取り入れた空間づくりを目指します。

図書館利用を目的とした人々に限らず誰もが気軽に立ち寄って時間を過ごすことのできる開放感のある居心地の良い空間を創り、多種多彩な目的を持った多くの人々が集まりやすく利用しやすい複合施設を目指します。

○ 複合施設整備運営方針

- 既存施設集約再編により床面積は減少、必要機能は維持
- 民間活力を導入し機能とサービスの向上、財政負担軽減を基本的方針とし、「滞在型」に重点に置いた機能の導入を図る。

○ 駅北エリア事業スケジュール案

令和3～4年	事業化検討・事業実施手続き
令和5～6年	各種調査、基本・実施設計
令和7～8年	工事
令和9年～	施設開業・運営開始

※スケジュールは概ねの時期になりますので、事業の進捗によって変更する可能性があります。

○ 駅北複合施設への集約イメージ

現状	計画案
<p>◆ 既存施設から30%規模縮小（瑞浪市公共施設再編計画より）</p> <p>中央公民館 約6,000㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> 瑞浪市直営 舞台イベント事業：業務委託により運営 固定式780席ホール使用はリハを合わせて30日程度稼働 	<p>◆ 機能重複や利用率低迷の諸室を再編</p> <p>文教施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間常時100%稼働機能の付加機能としてホール機能を検討 780席→400席に減少 防音機能と使用面積の調整が可能な貸スペース充実の検討
<p>図書館 約1,200㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度により運営 年間利用者5万人 WEBアンケート調査結果75%が1年以内の利用なし 	<p>図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> サロン型図書館への転換、目的別学習席の増設 利用者拡大と利用方法多様化、コミュニティを追求 居心地の良さ、カフェ等の付加機能の充実 ◆ 閲覧席・学習席の大幅拡張
<p>ぼけっと（子ども発達支援センター） 約570㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度利用（社会福祉協議会） 瑞浪市唯一の子ども障がい者対応施設 諸室ゆとりがある中、プレイルームのみ必要面積不足 	<p>ぼけっと・こぶし</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉支援施設を多世代交流施設と隣接し、多様化社会・インクルージョンを目指す 学校教育の時間以外の有効活用として、プレイルームの拡張と民間活用検討 ◆ プレイルームの再編拡張
<p>こぶし（教育支援センター） 約340㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> 瑞浪市直営（教育委員会） ぼけっとと共に、少子化の中利用者は今後も増加予想 諸室ゆとりがあるが、老朽化と採光不足が課題 	<p>新設機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間主体の保育所設立（隠れ待機児童問題の解消） 商業店舗、オフィス、就労支援、緑化等を検討 目的がある人もない人も、サードプレイスとして利用しやすくなる空間を創出するための機能を検討 社会実験を通じた導入機能の検証
<p>人口3.7万人 ～厳しい財政状況の下での施設運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を導入しつつも行政主体の運営管理には課題も多い 現運営方法ではインセンティブが効かず民間活力の発揮には至らず 全国的な人口減少傾向の中でも持続可能な施設運営を模索 	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存施設機能の集約再編 ② 管理運営を行政主体からの脱却 ③ 行政予算（指定管理費）のコスト削減（超高齢者社会での税収減少） ④ 市有地活用に民間の創意工夫を発揮し収益を生む仕組みを創出 ⑤ ゆるやかな公共施設創出と調和する民間施設 ⑥ ニーズが高く一貫性のあるサービスの提供 <p>サービスの持続可能なシステムの創出</p>

■ 駅南エリア 第1種市街地再開発事業・組合施行を検討中

住宅や商業施設の入った共同ビルや子どもたちが安全に遊べる芝生広場を整備し、歩いてみたくなるウォーカブルなまちなみ、市民が憩えるまちの形成を目指しています。駅南エリアと駅北エリアは自由通路等でのアクセスを検討しており、**駅周辺が一体となってまちの魅力・活力を高めていく**ことを目指します。（令和3年3月準備組合設立）